

3 Museums Information - Toyota City -

豊田市美術館／豊田市博物館／豊田市民芸館 からのお知らせ



ご案内

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置し、全国有数の製造品出荷額を誇る「クルマのまち」としての顔を持つ一方、市域の約7割を占める森林や矢作川流域の田園が広がる恵み多き緑のまちでもあります。

本市には、約3万年前から人が住み始めた土地としての長い歴史もあり、また、豊かな自然環境や文化的背景、文物等は、私たちの営みを支えてくれるだけではなく、アイデンティティを育み、未来を拓くヒントやエネルギーをも与えてくれます。

それらを多くの人と共有し、理解し合い、ともに心の糧とする機会や場となるため、本市では、美術館と博物館、そして矢作川のほとりに建つ民芸館の3館が、各館の個性を大切にしながらもミュージアムとしての機能を携えた文化拠点施設として連携し、今後様々な活動を展開していきます。

豊田市美術館

1995 年開館。「美術館とは、建築の外部から内部にまで、作品と出会う感動を求めて迎える旅のための装置である」という建築家・谷口吉生氏の思いが随所に現れた美術館。

作品と空間との関係、そして鑑賞者の芸術体験をなにより考慮して展示や教育普及活動等を行っています。



豊田市博物館

2024 年開館。可能な限り再生可能な材料やエネルギーを利用した21世紀を象徴する建物として坂茂氏により設計。

「みんなでつくりつづける博物館」として、“えんにち”のようなにぎわいを生む交流施設としての側面を持ち合わせています。

豊田市民芸館

1983 年開館。建物の一部は、東京・駒場の日本民藝館改築の際に移設されたもので、愛知県内唯一の公立民芸館。

民藝コレクションの他、平安時代中頃の猿投古窯復元穴窯や円空仏等もあり、四季折々楽しめる庭園も見どころです。



3 Museums Information - Toyota City -

豊田市美術館／豊田市博物館／豊田市民芸館 からのお知らせ



豊田市美術館

2026 年度、豊田市美術館では下記の展覧会を開催する予定です。春は愛知を拠点に画家・教育者として活躍してきた櫃田伸也の個展、夏にはアメリカの国民的画家として知られるアンドリュー・ワイエスの展覧会、秋には現代版画作家・井田照一の没後20年記念展と、常に新たなイメージを紡ぎだす注目作家・長谷川繁の展覧会、年明けには、新進気鋭の若手作家によるグループ展の開催を予定しています。

櫃田伸也—通り過ぎた風景

2026年4月4日[土]—6月21日[日] 主催：豊田市美術館 共催：未定



櫃田伸也《箱》2003-2019年 油彩、マスキングテープ、カンヴァス 豊田市美術館所蔵

愛知県立芸術大学で長く教鞭をとった画家・櫃田伸也(1941-)の個展。奈良美智ら現代美術作家として活躍する教え子を多く輩出したことでも知られるが、本展では画家としての櫃田に焦点をあて、1960年代の初期作品から、1970年代にはじまる風景を主題とした絵画、2026年作の最新作まで作品約120点を初出の資料などを交えて紹介する大規模回顧展です。

(仮)アンドリュー・ワイエス展

2026年7月18日[土]—9月23日[水・祝] 主催：豊田市美術館 共催：中日新聞社



アンドリュー・ワイエス《クリスティーナ・オルソン》テンペラ、パネル 1947年マイロン・クニン・コレクション、ミネアポリス(米国)

風景や人々を、深い精神性を宿したリアリズムによって描き、アメリカの国民的画家として知られるアンドリュー・ワイエス(1917 - 2009)。日本では17年ぶりの大規模な展覧会となる本展では、作品に数多く登場する窓や扉といった「境界」を暗示する表現に光を当てながらワイエスの芸術世界を紹介します。

出品点数：約90点

巡回先：東京都美術館 4/28-7/5、あべのハルカス美術館 10/3-12/6



豊田市美術館

(仮)井田照一展

2026年10月24日[土]ー2027年1月24日[日] 主催:豊田市美術館 共催:未定



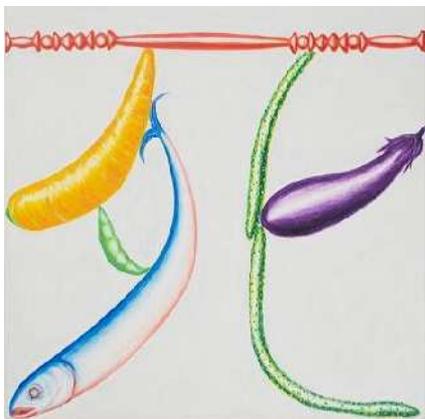
井田照一《Start》1967年、リトグラフ、紙、豊田市美術館蔵

現代版画作家として特異な位置を占める井田昭一(1941-2006)。没後20年を記念し、版画作品に加え、作家スタジオから寄贈された作品(立体、陶、ミクストメディア等)やライフワークともいえる《Tantra》ほか収蔵品を中心に他館所蔵作品を交えて作家の歩みを振り返ります。

当館では2004年の「井田照一 版画の思考」展以来22年ぶりの展覧会となります。

(仮)長谷川繁 ペイン天狗

2026年10月24日[土]ー2027年1月24日[日] 主催:豊田市美術館



長谷川繁《死ゲル》2021年 油彩、綿布、豊田市美術館蔵

長谷川繁(1963-)は、愛知県立芸術大学大学院を卒業後、ドイツ、オランダに身を置き、日本人である自分が、西欧由来の「絵画」を描くことの意味を問い、「できること」を真摯に追求するなかで自分の絵を確立しました。ユーモアと毒を含んだ作品は、見る人の感情を刺激し、一方で内側から発光するような画面は、「絵」として見るべき魅力にあふれています。

本展では、旧作から新作まで一堂に展示し、長谷川が選んだ当館コレクションとの組み合わせによる展示も行います。

(仮)春と云々

2027年2月27日[土]ー5月30日[日] 主催:豊田市美術館



光岡幸一《選ばなかった道》2021年 展示風景の写真

タイトルは、旅と仮住まいを繰り返した俳人・松尾芭蕉の句からきている。この展覧会では、気鋭の若手作家を招き、インスタレーション作品を中心に私たちの生活の場であるまちや住まい、あるいは旅することについて、作品を介して見つめなおします。

3 Museums Information - Toyota City -

豊田市美術館／豊田市博物館／豊田市民芸館 からのお知らせ



豊田市博物館

2026 年度、豊田市博物館では下記の展覧会を開催する予定です。豊田市にゆかりのある城郭考古学者・千田嘉博氏の監修による城に関する展覧会に始まります。夏には養老孟司氏と小檜山賢二氏がコラボした昆虫に関する展覧会、戦国時代を生き抜いた細川家 3 代と千利休に関する展覧会、市域の近現代を女性と労働の視点から紹介する冬の展覧会へと続きます。

日本の中世や武家の美術から自然にいたるまで、幅広いラインナップとなっています。

教えて、千田先生！ とよたの城も天下の城も

2026年4月25日[土]ー6月28日[日] 主催：豊田市博物館



千田嘉博先生
(撮影：島中和久)



浅野文庫諸国古城之図
のうち「大給」
広島市立中央図書館蔵

近年の城巡りブームをけん引し、メディアでも大活躍中の城郭考古学者・千田嘉博先生。先生が豊田市出身であることをご存知でしょうか？

本展は、千田先生の人となりや幼少時からひもとき、ゆかりの品々から研究の歩みを紹介します。

そして、城の見方を分かりやすく紹介するとともに、中世から近世への城の展開を豊田市域の城跡から紹介します。

また、市域発祥の松平氏(後の徳川氏)が築いた城に注目して、近世の城への展開と成立を紹介します。

発掘された資料や古文書、古絵図のみならず、最新技術を用いた現代の視点も交えて、中世から近世にかけてのダイナミックな城の展開を紹介します。

養老孟司と小檜山賢二 虫展 みて、かんじて、そしてかんがえよう

2026年7月11日[土]ー9月23日[水・祝] 主催：豊田市博物館



ゲンジョウオオコブハムシ 撮影：小檜山賢二

解剖学者で無類の昆虫愛好家・昆虫学者として知られる養老孟司氏。対象物のすべてにピントがあう深度合成技法を駆使し、昆虫写真の新たな可能性を切り拓いた小檜山賢二氏。ふたりは 70 年以上楽しく虫を観察してきました。

本展は、養老氏の言葉と小檜山氏の写真を通して、驚きと不思議に満ちた「虫」の世界を紹介します。

カブトムシ、ゾウムシ、トビケラの巣などの微細な構造をデジタル技術で拡大した、見たこともない造形をご覧ください。

豊田市博物館

(仮)永青文庫の名品

2026年10月10日[土]－12月6日[日] 主催：豊田市博物館、CBC テレビ、中日新聞社



国宝 短刀 無名正宗(名物包丁正宗)
鎌倉時代(14世紀) 永青文庫蔵



唐物尻膨茶入 銘利休尻ふくら
中国・南宋時代(13世紀)
永青文庫蔵

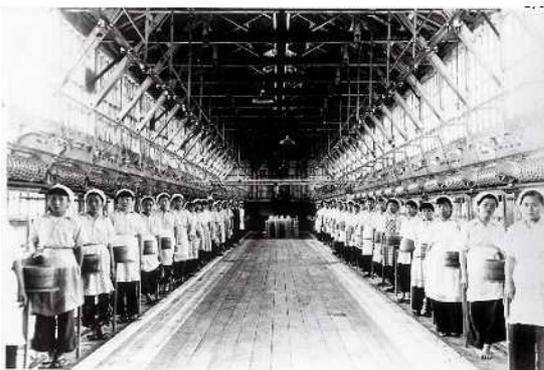
熊本藩を治めた細川家は、豊田市と岡崎市の境の細川郷を発祥とし、初代藤孝・2代忠興・3代忠利にわたって戦国から江戸時代初期の戦乱期を生き抜き、現在まで家系をつないでいます。この3代の間に、武家文化の精華である細川家伝来の名品「永青文庫」コレクションの基礎が形成されました。

本展では書画、古文書、刀剣等を厳選し、藤孝・忠興・忠利の事績を紹介します。また、茶人としての側面にも注目し、千利休ゆかりの名品を紹介するとともに、切腹直前の利休自筆書状(松井文庫蔵)を特別公開します。

さらに、近代に細川護立が蒐集した美術品や、大正期以降の当主の自作美術作品から、彼らの文化的な活躍を紹介します。

(仮)はたらく、私らしくー近現代の女性と仕事ー

2027年1月23日[土]－3月28日[日] 主催：豊田市博物館



加茂蚕糸 1954年 あいち豊田農業協同組合蔵

豊田市の「昭和百年」の歩みは、女性の社会進出・活躍の歴史でもあった一。

トヨタ自動車工業(株)挙母工場の創業以来、豊田市域には多くの男性労働者が流入するようになり、「豊田市はおとこばかり」(1968年)の評のように、男性人口が女性人口を大きく上回りました。

一方で、大正期から昭和期に操業していた製糸工場・加茂蚕糸は、女性にとって貴重な就職先でした。また、養蚕が盛んであった市域の農村では、女性は貴重な働き手でもありました。さらに、挙母・足助のまちなかでは、尾三バスの添乗員や芸妓として働く女性たちもいました。

本展では、市民と共に過去の広報や新聞記事等から当時の記憶を集める等の資料調査を行い、近現代の女性と労働、そして家族のあり方の変遷について紹介します。

3 Museums Information - Toyota City -

豊田市美術館／豊田市博物館／豊田市民芸館 からのお知らせ

豊田市民芸館
Toyota City Folk Craft Museum

豊田市民芸館

2026年度、豊田市民芸館では下記の展覧会を開催する予定です。

日本や世界の優れた「ものづくり」に新たな光をあてる展覧会を通じて手仕事の美しさや力強さを紹介し、日常の暮らしに宿る美しさを追求する民芸の価値や魅力を発信していきます。

ふたつのコレクション展

「芹沢銈介の仕事」・「筆と言葉 杉本健吉と本多静雄の交流」

2026年2月7日(土)～5月24日(日)

主催：豊田市民芸館



上：芹沢銈介《ぼんどり図四曲屏風》 豊田市民芸館蔵

民藝運動を代表する作家のひとりであり、「型絵染」を確立した人間国宝・芹沢銈介。生誕 130 年を機会に、「芹沢銈介の仕事」と題し、館蔵の芹沢作品の中から優品を厳選して紹介します。

また、同時開催として「筆と言葉 杉本健吉と本多静雄の交流」と題し、生誕 120 年を迎えた名古屋市出身の画家・杉本健吉の絵画をはじめ、杉本が手掛けた本多主催の茶会や創作狂言にまつわる作品など、二人の深い交流と文化活動に焦点をあてた展示を行います。

下：杉本健吉《社頭蓮池》1979年 豊田市蔵

アーツ・アンド・クラフツと民芸

2026年6月20日(土)～8月30日(日)

主催：豊田市民芸館



ウィリアム・モリス 《格子垣》 Photo © Brain Trust Inc.

19世紀後半にイギリスで始まったアーツ・アンド・クラフツ運動は、近代化の時流が生んだ先駆的な工芸運動です。アーツ・アンド・クラフツに始まる工芸への眼差しは、その後世界で同様の思想や運動が起こり、現代の私たちの生活様式や美意識に影響を与えています。第 1 部では、アーツ・アンド・クラフツ運動から生まれた工芸品をとおして、イギリスやアメリカなどで「生活に必要なものこそ美しくあるべき」と説いたウィリアム・モリスの眼差しを紹介し、第 2 部では、100年にわたって受け継がれた「民藝思想」を継承する工芸品をとおして、柳宗悦の「日常にこそ美が宿る」という思想が漂う作品を紹介します。

3 Museums Information - Toyota City -

豊田市美術館／豊田市博物館／豊田市民芸館 からのお知らせ

豊田市民芸館
Toyota City Folk Craft Museum

豊田市民芸館

一挙公開 棟方志功

I 期 2026年9月26日(土)－11月23日(月・祝)

II 期 2026年11月28日(土)－2027年1月31日(日)

主催：豊田市民芸館



棟方志功 《鐘溪頌 倭桜柵》1945年 日本民藝館蔵

日本民藝館は、棟方志功と柳宗悦が出会った1936年から柳が没する1961年までの25年間で制作された版画のほぼ全てを所蔵しています。棟方は初摺りの作品を2組ずつ柳に届けていて、その多くが柳の装案により掛け軸や屏風に仕立てられました。今回は、日本民藝館所蔵の棟方作品を「言葉のちから」、「敬愛のしるし」、「板のいのち」、「神仏のかたち」の4つのテーマに分類し、2期に分けて全容を紹介します。

(仮) これからの豊田市民芸館優品展

2027年2月27日(土)－5月23日(日)

主催：豊田市民芸館



《型染鶴亀文三河万歳衣裳》19世紀 豊田市民芸館蔵

豊田市民芸館は開館当初、実業家で古陶磁研究家であった本多静雄氏(1898—1999)の蒐集品を中心に展示を行い、その後、幅広い視点で衣食住にまつわる民芸資料の収集を行ってきました。本展では、開館後40年にわたり民芸館が収集してきた民芸資料を概観するとともに、その中から今後、豊田市民芸館の代表的コレクションとして発信していくべき資料を厳選して紹介します。また、民芸の森10周年と連動し、民藝への新たなまなざしを感じさせる特集展示を行います。

お問い合わせ先

豊田市美術館

〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1 代表電話 Tel 0565-34-6610

HP : <https://www.museum.toyota.aichi.jp>

e-mail: bijutsukan1@city.toyota.aichi.jp

- ・ 展覧会に関すること（学芸担当） Tel 0565-34-3131
- ・ 施設の利用、掲載依頼、取材等に関すること（庶務担当） Tel 0565-34-6748

豊田市博物館

〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町5丁目80番地 問合せ Tel 0565-85-0900

HP : <https://hakubutsukan.city.toyota.aichi.jp/>

e-mail: hakubutsukan@city.toyota.aichi.jp

豊田市民芸館

〒470-0331 愛知県豊田市平戸橋町波岩86-100 問合せ Tel 0565-45-4039

HP: <https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/>

e-mail: mingei@city.toyota.aichi.jp